

多様性よ花開け

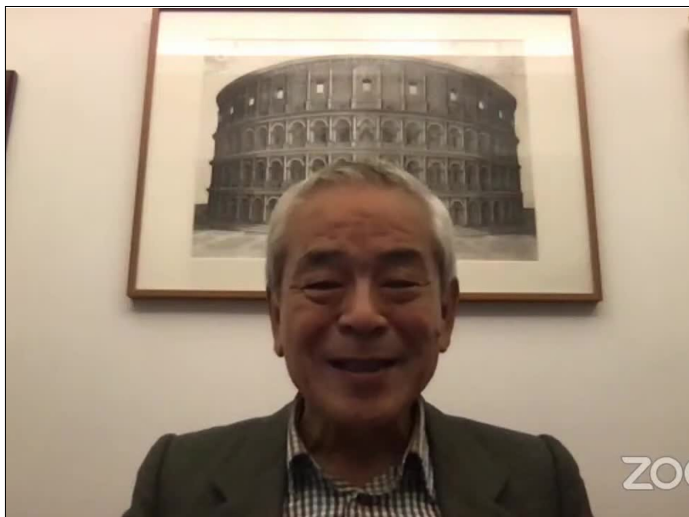
岩日タイムズ

発行者

岩瀬日本大学
高等学校
ソーシャルメディア部
緒方 桃子

高校生に交流の場を 青柳正規さんオンライン取材会

10月11日、東京オリンピック・パラリンピック大会組織委員会の文化・教育委員長の青柳正規さんへの取材会が行われた。全国各地の高校生・新聞部員が参加し、青柳氏へのインタビューと交流会を行った。コロナ禍で表現の場を失った高校生にとつて、今回のオンライン取材会はとても有意義なものとなった。青柳さんが指揮を執る予定だった「東京2020ONIPPONフェスティバル」は、国と地方自治体が連携し、日本の文化・芸術を国内外に



高校生からの質問に答える青柳正規さん

発信していくためのプロジェクトである。「Blooming Of Culture (文化は出会いから花開く)」をキャッチフレーズに、文化交流から生まれる多様性を発信する。

2020東京オリンピックを語る上で新型コロナウイルスによる影響を欠かすことはできない。大会が一年延期されたことによる影響について青柳さんは次のように語った。「一年延期されたことにより準備期間が生まれた。この時間を無駄にすることなく使えば、より良いものを獲得できる」さらに、「これからの人生でつまづいたとき、必ず自分にとつての栄養となるだろう」と高校生へエールを送った。

世界の人々に地元の文化や歴史を伝えるには、まず自分自身がその魅力を知る必要がある。「今ならでは」「自分ならでは」の目線を持ち続けることが大切だ。

地元のを伝えたい 益子陶器市



オンライン取材後、青柳さんの言葉を受けて、私は地元の栃木県益子町で行われている益子陶器市に足を運んだ。

益子陶器市は毎年春と秋の2回、城内坂やサヤド地区を中心に開催される。約50の店舗に加え500以上のテナントが立ち並び、近年にはおよそ30万人の来場があった。

しかし今年からは新型コロナウイルスの影響で、1996年から続く益



益子焼窯元共販センター前の「益子ぼん太」

子陶器市は初めて中止された。

益子陶器市が中止されたにも関わらず、現在、城内坂は観光客でにぎわっている。益子陶芸美術館の受付係員は「GOTOトラベルキャンペーンの影響もあるかもしれない」と笑顔で語った。多くの店の入り口に消毒液やマスク着用での入店を喚起する張り紙があり、観光客を積極的に取り入れる工夫が行っている。

さらに、今年新たに陶器市のWEB開催が始まった。230件の作家・窯元・販売店が参加する益子WEB陶器市。WEB上で作品を簡単

に見比べられるだけでなく、遠い地域に住む人も自宅から作品を購入することができる。コロナ禍による影響を前向きに捉えた結果生まれた、新しい形の陶器市だ。春に続いて第2回となる益子WEB陶器市2020秋は、10月31日から11月10日まで開催される。この機会にぜひ、益子焼を購入してみたいかがだろうか。

編集後記

1964年に開催された東京オリンピックでは、戦後日本の復興した様子が世界に伝えられた。今回のオリンピックは、コロナウイルスとの共存を模索するだけでなく、度重なる自然災害を経験してもなお前に進む日本を象徴する歴史的な祭典となるだろう。困難な状況があったからこそ、文化の祭典として輝くオリンピックの姿を知ることができたのだと思う。

(緒方)